

もし狂犬病が入って来たら・・・

日本は周りが海に囲まれた島国です。そのため、最後の発生から現在まで30年以上日本における狂犬病の発生はありません。
また、発生がなかった事の要因には、狂犬病のワクチンの普及と、検疫によるところがおおきいのです。

最近、ロシアの漁船の出入りが頻繁になって来ました。
とくに、小樽、稚内、釧路、根室など。

いずれの地区においても、ロシア人の持ち込んだ犬が町中をうろついているという話しをよく聞きます。
稚内ではロシア人が犬を放しているという報道もありました。

全世界で狂犬病の発生がない地域はわずかです。

日本の周りでは、殆ど狂犬病の発生がある、常在地域ばかりです。

ロシアも狂犬病の発生している地域の一つで、ロシア人が持ち込んだ犬が狂犬病にかかっていたら、
そして、その犬が町中をうろついたら・・・
免疫の内動物にはたちまち感染してしまいます。

現在日本では犬のみ接種を義務づけられています。

狂犬病にかかるのは犬だけではなく、猫、ねずみ、きつね、たぬき、などなど、殆どの動物に感染します。

5/23にテレビで猫が狂犬病になったら・・・という内容の番組が放映されていました。

これが 現実になる日も遠くないとしたらどうしますか？

狂犬病に人間が感染すると、助かる可能性はかなり低いのです。
海外では毎年なん万人もの人が、狂犬病で亡くなっているそうです。

大流行を阻止するには、最低でも全体の7割以上の動物がワクチン接種している必要が有ります。

狂犬病の感染方法

狂犬病に感染している動物のよだれ、くしゃみなど、飛沫が感染源になります。
咬まれても感染します。

なぜ、人間に狂犬病のワクチン接種を薦めないのか

最近の狂犬病ワクチンは副作用が少なく安全に使えるようになっていきます。
一昔前のワクチンでは、副作用が強く、人間に接種するには危険が大きかったため、その媒介となる動物を予防する事で人への感染を阻止しようと言う目的で、狂犬病予防が始まりました。

なぜ犬だけ予防するのか？

狂犬病予防法ができた時の時代背景が関係しています。
当時は、犬は継がれて飼われているので登録管理がやりやすかったのです。猫は通常放し飼いで、
個体登録管理が難しいということで犬だけ予防する事になったようです。

実際には犬だけではなく、猫も、ウサギも、フェレットも感染するので予防するべきなのです。

当院では、希望する場合、犬以外の動物への狂犬病ワクチン接種をいたします。
ワクチン料金 2500円

不明な点はお尋ねください

北海道札幌市手稲区星置2条4丁目7番38号
アニマルクリニックおかもと
電話 011-699-2129 fax 011-699-2127